



東京2020オリンピックで活躍した5選手を表彰

歴史に残る快挙を たたえる



素根選手（中央）と来賓の皆さん

東京2020オリンピックで活躍した久留米ゆかりの選手5人の功績をたたえ、表彰しました。

初の市民栄誉特別賞

9月3日に久留米市出身の素根輝選手（パーク24所属）に久留米市民栄誉特別賞を贈呈しました。この賞は、市民に明るい希望を与え、市のイメージアップに貢献した功績顕著な人に贈るもので、平成30年に創設しました。素根選手は受賞者第1号です。

素根選手は、柔道女子78kg超級に出場し、金メダルを獲得。柔道混

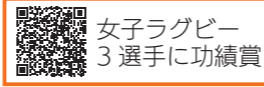


パリオリンピックでも活躍できるように頑張りたいと笑顔で語る素根選手

合団体では、ただ一人全勝し、銀メダル獲得に大きく貢献しました。素根選手は「東京オリンピックで金メダルを取るということを目標にずっと取り組んできました。家族や恩師からいろんな面で支えてもらい、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。久留米の皆さんからたくさんの応援をもらい、それがいつも力になっています。ありがとうございました。」と話しました。

東京五輪出場の4人に 市スポーツ功績賞

9月6日、本庁舎で東京2020オリンピックに出場した、女子7人制ラグビーの白子未祐選手、弘津悠選手、サポートメンバーとして支えた中村知春選手に市スポーツ功績賞を贈呈しました。3人は本市に拠点を置く女子ラグビーチーム「ナナイロプリズム福岡」に所属。中村選手は「名誉な賞をいただいてありがたい。これからも



女子ラグビー
3選手に功績賞



受賞したナナイロプリズム福岡の中村選手（右）、白子選手（中央）、弘津選手

久留米の名前を背負って、世界に羽ばたいていきたい」と語りました。21日には、女子カヌースプリント競技に出場した桐明輝子選手（福井県スポーツ協会）にも本庁舎でスポーツ功績賞を贈呈しました。桐明選手は三潞高校出身で、在学中にカヌーを始めました。桐明選手は「結果としては満足するものではなかった。悔しさをバネにパリオリンピックではもったいない成績を残したい」と抱負を語りました。

☎ 体育スポーツ課（☎0942・309226、FAX0942・302259）



桐明選手に
功績賞



大久保勉市長から市スポーツ功績賞の表彰状を受け取る桐明選手（左）

過去の市スポーツ功績賞受賞者

名前	競技	受賞年
中野 浩一	競輪	昭和 56年
藤野 小百合	弓道	平成 26年
岡村 徳之	テニス審判	平成 27年
濱田 真由	テコンドー	平成 27年
素根 輝	柔道	平成 29年
相菌 健太郎	パラサイクリング	平成 30年
緒方 良行	ボルダリング	平成 30年
古賀 宏和	ベンチプレス	令和元年
古賀 若菜	柔道	令和元年
小林 優香	競輪	令和元年
流 大	ラグビー	令和元年
田中 光哉	パラテコンドー	令和 2年

※敬称は省略

女子競輪の2選手がふるさと大使に



9月21日、ガールズケイリンの小林優香選手と児玉碧衣選手が、「くるめふるさと大使」に就任しました。久留米の認知度やイメージ向上のため、市の魅力を広く発信します。2人は久留米競輪場をホームバンクに活躍しています。

小林選手は過去に「女子賞金ランキング」1位や「JKAガールズ最優秀選手賞」を獲得。東京オリンピックの自転車トラック競技では、日本新記録を樹立しました。児玉選手は3年連続「女子賞金ランキング」1位、ファン投票の「ガールズケイリン総選挙」でも5年連続1位。人気と実力を兼ね備えた国内トップ選手です。

委嘱式で小林選手は「ふるさと大使の名に恥じないように頑張りますので応援よろしくをお願いします」、児玉選手は「久留米競輪場や自転車を通じて久留米市を盛り上げていきたいです」と抱負を語りました。

☎ 広報戦略課（☎0942・309119、0942・309702）



委嘱状を手にする小林選手（左）、大久保勉市長（中央）、児玉選手